

宇陀市獣肉利活用施設 UDA GIBIER FACTORY



盛大に行われた竣工式=2月29日

宇陀市ではシカやイノシシによる農林業への被害が多発しており、生産者の営農意欲の減少に繋がるなど深刻な状況にある。被害対策として有害鳥獣捕獲に取り組んでいるが、捕獲後の処理や労力も課題となっている。そうした中、捕獲後のシカやイノシシを地域資源としてとらえ、ジビエとして有効活用するための獣肉利活用施設「宇陀ジビエファクトリー」を建設。敷地面積9959平方メートル、建築敷地1630平方メートル、進入路他8329平方メートルに解体処理を行う処理加工施設も整えた。NPO法人宇陀ジビエ推進協議会が4月より運営する。

金剛市長は「ジビエ認証基準に対応した近畿最大の施設。この施設を軸に獣害に苦しむ多くの生産者の被害軽減と農林業の振興、地域活性化に努めたい」とした上で「毎月29日をおいしい宇陀のお肉の日とし消費拡大に取り組みたい」と挨拶。来賓の山本議長は「市の発展または起爆剤として活かしていきたい。田中県議は「地域の方々の方々の生活の安定」と新しい事業への取り組みに期待している。県食と農の振興部の吉田和嗣次長は山下真知事のメッセージを代読、鴻池昭英副市長が事業経過を報告した。その後、中作（造成工事）、北和設計（設計監理）、松塚・ハクリュウJV（建築工事）のそれぞれ代表者に感謝状が贈られた。式典後にはテープカット、施設内覧も行われ、出席者全員で施設の完成を祝った。

近畿最大規模のジビエ生産拠点

感謝状贈呈



北和設計（高杉社長） 中作（中西社長）



ハクリュウ（笹尾社長） 松塚建設（井上社長）



金剛市長（左から3人目）ら関係者でテープカット



洗浄・剥皮室



宇陀市室生田口元上田口1395番地

被害軽減と農林業の振興、地域活性化に向けて

宇陀市は先月29日、捕獲したシカやイノシシを解体処理を行うための獣肉利活用施設「UDA GIBIER FACTORY」(室生田口元上田口1395)の完成に伴う竣工式を執り行った。式典には金剛一智市長をはじめ、田中惟允県議会議員、山本裕樹市議会議長ほか、関係者約50人が参加し、施設の完成を祝うとともに、今後の取り組みに期待を寄せた。特定非営利活動法人宇陀ジビエ推進協議会が4月1日より運営を開始する。



宇陀市長 金剛 一智

宇陀市における農林業被害の防止を目的として捕獲したニホンジカ等を資源として有効活用し、獣肉の特産品化による地域の活性化に寄与する施設として獣肉利活用施設「宇陀ジビエファクトリー」が完成しました。

施設の建設に際しまして地域の皆様には多大なるご理解とご協力を頂き、厚くお礼を申し上げます。また、最後まで事故もなく安全な工事に努めていただきました工事関係者の皆様に深甚なる謝意を申し上げます。

本市ではこれまで獣害対策として宇陀市猟友会の方々にご尽力いただきシカやイノシシを年間約1500頭捕獲しています。大半は有効活用されず処分されている状況でした。

捕獲後の処理も大きな負担となっており、獣害対策を進める上で大きな課題でした。この課題を解決すべく、年間1000頭程度を優良なジビエ肉として製造できる規模とし、ジビエ認証に対応した間取りや設備を整えた施設となっています。

今後とも、地域社会の発展と健全な生態系の保全に努めるとともに、地域資源として命を無駄にせず獣肉の利活用を進め、農林業の振興に取り組んでまいります。

4月1日供用開始

ジビエ認証基準に対応
安全・安心な施設

祝・獣肉利活用施設「宇陀ジビエファクトリー」竣工

設計・監理

建築企画・設計・監理

株式会社 北和設計

代表取締役 高杉 明

〒630-8001 奈良市法華寺町126-1
TEL (0742) 30-4621
FAX (0742) 30-4622

施工 松塚・ハクリュウ特定建設工事共同企業体

年輪を重ね、技を重ねて心を尽くす

総合建設業
ISO 9001/14001認証取得



松塚建設株式会社

代表取締役社長 井上 清利



本社 奈良県宇陀市榛原福地610-1
(0745) 821371
三重営業所 三重県伊賀市長田3034
(0595) 264115

EVER ONWARD
限りなき前進

宇陀市を地盤に70年。建設のプロフェッショナルとして
私たちはこれからも地域に貢献してまいります。



株式会社 ハクリュウ
EVER ONWARD 限りなき前進

代表取締役 笹尾 和志

〒633-0315 奈良県宇陀市室生大野3256
TEL.0745-92-2328
FAX.0745-92-2128
ISO認証登録(14001:2015) / (9001:2015)